

津久見市立第一中学校の 同時双方向型オンライン授業への挑戦


「一人一台の端末が整っていない中で、
どうやって津久見第一中は実現したのか」

～津久見第一中の取組から学ぶ～


大分県教育庁義務教育課




「GIGAスクール構想」って、なに？




児童生徒一人一人に1台の端末が準備されるんだよ。
今年度中には、全て整備される予定だよ。



同時双方向の授業が、いよいよ実現するのね。
第2波が来るまでに揃うといいわね。



間に合わない可能性もあるよ。
「もの」が揃わないと、何もできないよ。



今ある教育資源を使って、何ができるか考えるべきです。

「コロナ」は待ってくれません。

1人1台の端末は無くても、5月の休業中に、同時双方向の授業
を実施した学校があります。

津久見市立第一中学校

みんな、このところ、わかったかな。

わかった人は、「挙手」をクリックしてごらん。





一人一台の端末が、準備されていないのに、どうやって実現できたのか？

津久見第一中学校は、どんなことをしたの？



現 状

第一中の
教育資源

- タブレットは、学級数だけ。(9学級・・・9台) 全校生徒236人
- ネット環境はなし。
- ICT活用に詳しい教員(若手)が1人いる。

課 題

プラス α が
必要な教育
資源

- Wi-Fiルーターが必要。
- Wi-Fiルーターとタブレットの接続が必要。
- 保護者の協力が必要。

課題の
解決プラス α の
教育資源

- 隣の学校にルーターが2台あり、1台借りる。(近隣校の支援)
- 業者にルーターとタブレットの接続を依頼する。(市教委の支援)
- 家庭のタブレットやパソコンを利用する。(PTAの支援)

下準備と
して行っ
たこと①遠隔授業
開始に向け
て全家庭の
調査を行う

- 4月27日、28日に全学級の家庭訪問を行い、各家庭のネット環境と端末等を調査する・・・17人の環境が整っていない。
- 17人の生徒は、各学級で遠隔の授業を行う時は、学校に登校させ、授業者(ホスト側)から、授業に参加することにする。


 遠隔授業に向けて、ハード面の整備がととのう。

津久見市立第一中学校の取組② 「オンライン学活」の実施

下準備として行ったこと②

先行実施のクラスを決める

- 2年担任のT教諭が行うことが決まる。
- 先行実施のクラスの取組を、全ての教員が見ながら学んでいくことにする。

他の教諭は見て学ぶ

- T教諭の行うことを参考に、自分の学年での実施に備える。
- 校内研修等で、オンラインについての研修を行う。

遠隔授業開始に向けて、2年生の家庭の準備を整える

- 4月30日に、T教諭は、PTA学級委員長に「ズームによるオンライン学活」を行うことを連絡。
→ 5月7日と8日の8:00と13:00に実施
- T教諭のクラスの家庭に、オンライン学活の実施のお知らせをメールで送付。(ズームの設定の仕方やログインの仕方)
- ダウンロードや設定が上手くいかない生徒の家に訪問指導

2年部で試してみる

- 5月1日に、T教諭は、「オンライン学活」を想定し、2年部の教員と試しを行う。

実施 I

T教諭が実際に自分のクラスで実施

- 5月7日と8日の8:00と13:00に「オンライン学活」を実施
- 環境が整っていない生徒は、学校で実施。
- ホームルームの際に、「挙手、拍手、チャット」等の操作を教える。
- 生徒は、パスワードを受け取り、ログインの仕方を覚える。
- 生徒は、「ミュート」や「挙手、拍手、チャット」、「バーチャル背景」、「グーグルフォームのアンケート」を使えるようになる。

先行実施の「オンライン学活」が成功する。

津久見市立第一中学校の取組③ 「オンライン授業」の実施

実施Ⅰの振り返り

先行実施の「オンライン学活」での課題を整理する。

- 生徒と保護者(オンライン学活を見ていた方)に、先行実施のオンライン学活に関して、グーグルフォームでアンケートを行う。
- アンケートを集約し、「オンライン授業」に向けて、何が課題なのか全教職員で共有する。
- 課題に解決策を検討し、「オンライン授業」に活かす。

実施Ⅱ

T教諭が、数学の授業を実施



- 5月12日、13日に自分のクラスで数学の授業を実施。生徒は、ブレイクアウトルームを使って、グループの話し合い、答え合わせ、教え合いを行う。
- 担任は、各グループに順番に入って指導していく。
- 振り返りは、グーグルフォームの「退室時アンケート」を使い、生徒に書かせ、送信させる。



他の学年や学級も実施

全クラスで、オンライン学活実施

- 5月14日に、全クラスで「オンライン学活」を実施する。
- 事前に家庭訪問を行い、ズームの設定のプリントを配布した。
- 設定が上手くいかない家庭には、訪問して支援を行った。
- 環境が整っていない生徒は、学校で実施。

実施Ⅲ

理科、英語、社会の授業を実施

- 5月15日に、英語、社会、理科のオンライン授業を実施。
- 授業では、動画やパワーポイント等が使われた。

全員の生徒が「遠隔授業」を体験する。

振り返る

これまでの取組を校内研修で総括

- 2週間の取組を振り返り、良さと課題を確認する。
- T教諭を中心に、新しい技能を覚える。
- 全員の教員で実施してみる。



全員の先生が「遠隔授業」を体験する。

こんなあたたかい話も



第一中学校の生徒さんたちは、病気で、院内学級に転校した生徒さんと、ズームを使って、会話をしているそうです。

オンライン授業への挑戦！ ～「まずはやってみる」の精神で！～

長引く臨時休校に加え、今後心配される感染拡大第2波によるさらに長い休校など様々な状況にも対応するために、一中ではオンライン授業への挑戦を始めました。ICT教育環境が未整備の状況下で、何を活用すればどんなことができるのか、最短でどこまで整備すれば何が可能になるのかを、市教育委員会と相談しながら、各家庭にも全面協力をいただき、今できることから始めていきました。厳しい状況下ではどうしてもできない理由ばかりを探してしまいがちですが、わが一中の先生方はそうではなく、あきらめず可能性を求めて**「まずはやってみる！」の精神で挑戦**してくれています。素晴らしいです。朝8時各クラスの画面上に次々とみんなが参加し、担任と仲間同士でのオンライン学活が行われたね。ステイホームの中でも**仲間とつながる**貴重な時間となりました。オンライン授業にも挑戦して、グループでの教え合いも行われ、先生たちもみんなもどんどん扱いが上手になる姿には本当に感心しました。取り組みが進むほど、工夫改善すべき点が次々に発見できるとともに、ICT教育の無限の可能性も確実に感じることができます。今後も一中では、引き続き生徒と先生で共に挑戦を積み重ねながら、着実に新しい時代を見据えた多様な学びを創り上げていこう。**「まずはやってみる！」の精神で挑戦だ！**



第一中学校の学校だより
オンライン授業への挑戦「まずはやってみる！」

津久見市立第一中学校の 中野校長先生より

- 4月の段階で、家庭訪問と宿題を届けるだけでは、限界があると感じていた。
- 校内にICTに詳しい教諭がいたから、この取り組みが実現したと思う。
- もしも第2波が来ても、生徒たちと学校はつながっていく。
- 授業の質から言えば、まだ課題は多いと思うが、今後も研修していきたい。

津久市立第一中学校の取組から見えてくること

1 学校長等のリーダーシップ

- ①「まずは、やってみる」という精神が必要。（「校長だより」より）
- ②「学校がすべきこと」と「保護者にお願いするべきこと」を整理する必要がある。

2 教育資源の把握および分析

- ①「遠隔アプリ」に詳しい教員と遠隔授業の取組を進める教員が必要。
- ②各校が、自校の児童生徒のネット環境を把握しておく必要がある。
- ③自校にある、オンラインに関する教育資源を把握・分析し、何ができるのか検討する必要がある。

3 まずは、「ホームルーム」の実施

- ①初めから授業ではなく、「テストホームルーム」の実施を目指す。
すぐに授業につながる。
- ②遠隔アプリを使った校内研修の計画および実施